

## I 第27週の発生動向 (2014/6/30~7/6)

1. 水痘については、むつ保健所管内で注意報が解除されました。
2. 伝染性紅斑については、八戸保健所管内で第26週より**警報**が継続しています。
3. 急性出血性結膜炎については、八戸保健所管内で警報が解除されました。
4. 無菌性髄膜炎については、五所川原保健所管内で第18週より局所的な発生が継続しています。

## II 第27週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 内科	(90)	インフルエンザ							2	0.2			2	0.0	1				
	(79)	RSウイルス感染症											16	0.4	-1				
	(80)	咽頭結膜熱	8	1.0	1	0.1	2	0.2	5	1.0					1			8	1.0
	(81)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	0.3	7	0.8	22	2.2			10	1.7	4	1.0	4			2	0.3
	(82)	感染性胃腸炎	25	3.1	10	1.1	10	1.0	5	1.0	11	1.8	38	9.5	99	2.4		25	3.1
	(83)	水痘	9	1.1			1	0.1	3	0.6	3	0.5	3	0.8	19	0.5		9	1.1
	(84)	手足口病	2	0.3	3	0.3	1	0.1	5	1.0	1	0.2			12	0.3		2	0.3
	(85)	伝染性紅斑	6	0.8	1	0.1	13	1.3			2	0.3			22	0.5		6	0.8
	(86)	突発性発しん	6	0.8	1	0.1	11	1.1			6	1.0			24	0.6		6	0.8
	(87)	百日咳													-1				
	(88)	ヘルパンギーナ			10	1.1	17	1.7			1	0.2			28	0.7			
	(89)	流行性耳下腺炎	3	0.4	8	0.9					1	0.2	2	0.5	14	0.3		3	0.4
眼科	(91)	急性出血性結膜炎													-4				
	(92)	流行性角結膜炎			1	0.3	1	0.5							2	0.2			
基幹	(97)	クラミジア肺炎													0				
	(98)	細菌性髄膜炎													0				
	(100)	マイコプラズマ肺炎					2	2.0				5	5.0		7	1.2			
	(101)	無菌性髄膜炎							10	10.0					10	1.7			
	(82)	感染性胃腸炎(ロタウイルス)								1	1.0	2	2.0	3	0.5	-3			

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

## III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 東地方+青森市1人、八戸2人、上十三1人(2014年計:162人)
- (15) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 五所川原1人(2014年計:1人)
- (37) つつが虫病(四類全数把握疾患): 五所川原1人(2014年計:10人)

## IV 病原体検出情報

( )内は、検査材料及び検体採取日、検出数です。  
 ・無菌性髄膜炎患者(髄液、6/25~7/1)・・・エコーウイルス30型:五所川原(7)

## 感染症の窓

## RSウイルス感染症(五類定点把握疾患)

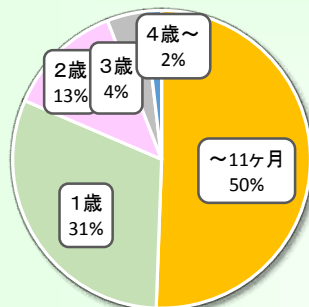


図1 年齢別患者報告数割合 (N=981) (2013年)

RSウイルス(respiratory syncytial virus, RSV)感染症は、RSVによる急性呼吸器感染症であり、感染症法では5類定点把握疾患(小児科定点)に分類されています。飛沫および接触感染により伝播します。

4~5日の潜伏期間の後に、初感染の乳幼児では上気道症状(鼻汁、咳など)から始まり、その後下気道症状が出現します。38~39℃の発熱や、気管支炎、肺炎を併発することもあります。乳児期の発症が多く、生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%がRSVの初感染を受けますが、初感染によって終生免疫は獲得されません。

本県における昨年の患者報告数は981人でしたが、その80%が1歳以下の乳幼児でした(図1)。

また、昨年は1~6月にかけて減少しましたが、7月から増加を始め、11~12月にピークを示しており(図2)、今年も今後の動向に注意です。

感染経路はヒトからヒトへの感染のみです。

予防としては、

- ① 感染児あるいは感染の疑いのある児に接する時には、上着、エプロン、マスクなどを着用する、
  - ② 石鹸を使つての流水での手洗いや、アルコールでの手指の消毒、
  - ③ 食器類、おもちゃ、ベッドの手すり、ドアノブなどの接触源を塩素系消毒剤やアルコールなどでこまめに消毒する
- といった基本的な対策により感染の機会をかなり減らせることがわかっています(IASR 2014年6月発行)。

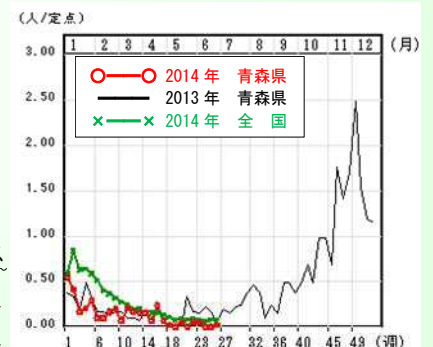


図2 2014年 週別推移(第26週現在)

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第11週～第27週）

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
11	H26.3.10 ~ H26.3.16		急性脳炎1人 侵袭性肺炎球菌感染症1人	急性脳炎1人			
12	H26.3.17 ~ H26.3.23		アメーバ赤痢1人				
13	H26.3.24 ~ H26.3.30						
14	H26.3.31 ~ H26.4.6	アメーバ赤痢1人					
15	H26.4.7 ~ H26.4.13	侵袭性肺炎球菌感染症1人					
16	H26.4.14 ~ H26.4.20	急性脳炎1人	梅毒1人				
17	H26.4.21 ~ H26.4.27			A型肝炎1人			
18	H26.4.28 ~ H26.5.4			急性脳炎1人 梅毒1人			
19	H26.5.5 ~ H26.5.11			アメーバ赤痢1人		後天性免疫不全症候群1人	
20	H26.5.12 ~ H26.5.18		つつが虫病1人	アメーバ赤痢1人			
21	H26.5.19 ~ H26.5.25	侵袭性肺炎球菌感染症1人		梅毒1人			
22	H26.5.26 ~ H26.6.1	つつが虫病1人	後天性免疫不全症候群1人	破傷風1人			
23	H26.6.2 ~ H26.6.8		侵袭性肺炎球菌感染症1人	つつが虫病1人 レジオネラ症1人	つつが虫病1人		
24	H26.6.9 ~ H26.6.15	つつが虫病1人		E型肝炎1人 つつが虫病2人			
25	H26.6.16 ~ H26.6.22			アメーバ赤痢1人		つつが虫病1人	
26	H26.6.23 ~ H26.6.29	つつが虫病1人					
27	H26.6.30 ~ H26.7.6				腸管出血性大腸菌感染症1人 つつが虫病1人		

VI 結核(二類全数把握疾患) (2014年第17週～第27週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
17	H26.4.21 ~ H26.4.27	2	1	2	3		
18	H26.4.28 ~ H26.5.4	1		4			
19	H26.5.5 ~ H26.5.11	1					
20	H26.5.12 ~ H26.5.18		1	2	1		
21	H26.5.19 ~ H26.5.25	3	1	1	1	2	
22	H26.5.26 ~ H26.6.1	1		1			1
23	H26.6.2 ~ H26.6.8	2	4		1		
24	H26.6.9 ~ H26.6.15	1	1	4	1	2	
25	H26.6.16 ~ H26.6.22	3					
26	H26.6.23 ~ H26.6.29	2		4	1	1	
27	H26.6.30 ~ H26.7.6	1		2		1	

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国 (2014年第1週～第25週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキコックス症	オウム病	Q熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	チクンゲーア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症	ボリリウス症	マリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
累積報告数	11526	49	681	21	7	70	365	5	6	1	1	23	5	91	78	48	5	1	27	1	464	7

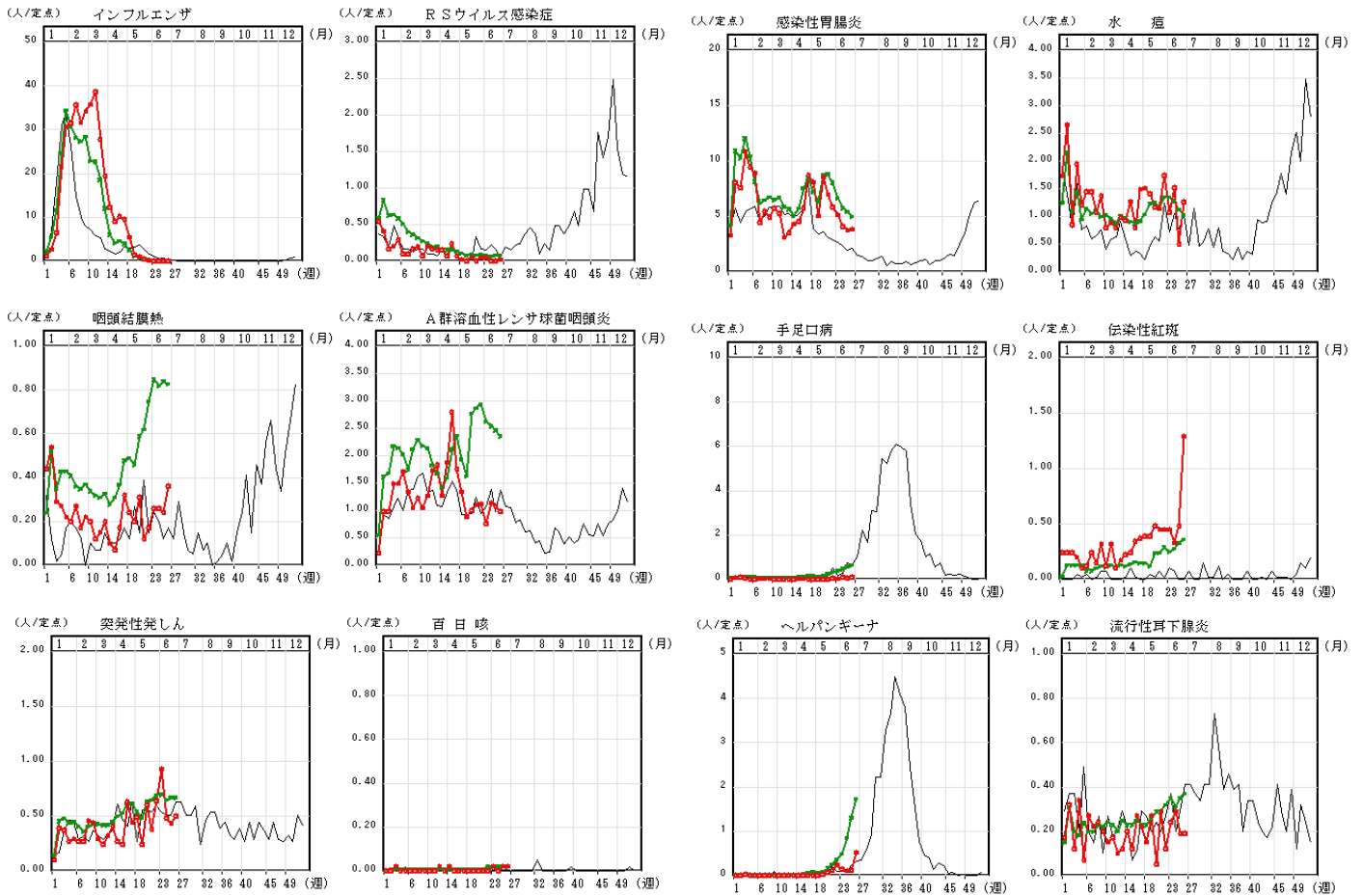
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	
疾病名	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルトヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵袭性インフルエンザ菌感染症	侵袭性髄膜炎菌感染症	侵袭性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バンコマイン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん
累積報告数	508	120	232	9	77	125	661	32	101	19	1037	8	703	51	24	224	391

青森県 (2014年第1週～7月7日16:30累計)

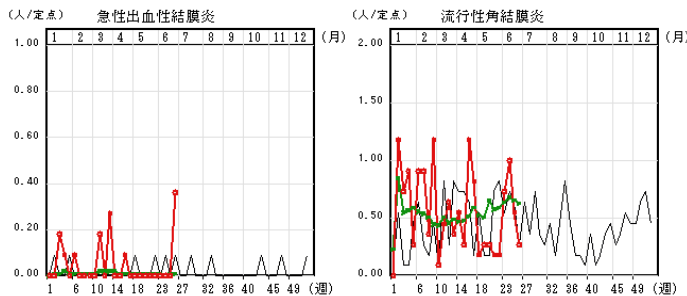
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	急性脳炎	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵袭性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風
累積報告数	162	1	1	1	10	2	6	8	1	2	5	3	1

## VIII インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第26週)

グラフの説明 ○—○は2014年青森県、—は2013年青森県、 ×—×は2014年全国



## IX 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第26週)



## X 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第26週)

